

平成29年台風第18号災害から2年

～ つくみの防災活動の取り組み ～

市内各地に多くの被害をもたらした台風第18号から2年が経ち、当時の台風被害から復旧しつつあります。しかしながら、今年においても佐賀県を中心とした豪雨災害を始め、全国各地で大規模な豪雨被害が相次いで発生しています。

近年の災害には、施設整備だけでなく、地域の防災意識の向上が非常に重要になっています。この2年間の社会基盤の整備、地域や学校の防災活動を振り返るとともに、一人ひとりが防災に対する意識を高め、さらなる防災・減災活動につなげていきましょう。

地域や学校の 防災活動



災害時にはどのように避難するかを考えながら、各地区・各学校で避難訓練を積極的に実施しています。



風水害だけでなく、近いうち発生のおそれが高いと言われる「南海トラフ巨大地震」に備えて、子どもたちに津波の恐ろしさ、避難の大切さを伝える特別授業を行っています。子どもたちの防災に対する意識も高まっています。

地域と行政が 協力して



中田区は、今年度、大分県の土砂災害避難モデル地区に指定され、地域内の土砂災害における危険場所の把握や被害を想定しての街歩きを行い、地域住民と一体となった避難行動計画の策定や避難訓練の実施を行っています。

社会基盤の 復旧・強化



被災した4本の橋がすべて復旧しました。今後、流木が橋脚に引っかかり、越流しないように、復旧した橋では橋脚がない設計で工事をを行いました。



大規模な土砂災害を防ぐため、大分県が主体となって、緊急砂防事業・緊急急傾斜地崩壊対策事業・緊急治山事業を実施しています。

～活動者の声～ 台風第18号災害を機に、日々防災活動に取り組む方々より



中田区自主防災会 会長 木戸 幸一さん

台風第18号の災害を教訓に、区民に自主避難・早期避難を定着させるため、土砂災害に対する勉強会を、年に3～4回開いています。

また、自主防災会の組織力強化や、食料等の備蓄も行っています。今年度は、大分県の土砂災害避難モデル地区に指定され、ハザードマップの再点検や街歩きを行い、改めて災害のおそれがある場所を再認識しました。今後は、災害時要支援者とされる方たちを迅速に避難させる方法を検討していきます。

聖徳小学校 6年生 出口 亜紗美さん

2年前、私が住んでいるこの聖徳地区は台風第18号によって大きな被害を受けました。徳浦川は、水があふれ家の前の道に大木や土砂、それに大量の泥が流れとてもびっくりしました。学校の様子は、私の予想をはるかに超えていました。校舎の1階は、床上70cmまで水に浸かりました。理科室、図書室、給食室など全て泥でいっぱいでした。

でも、地域の人や中学生、5・6年生が、がんばってくれたおかげで私たちは、学校に通えるようになりました。給食は、11月から食べられるようになり、とてもうれしかったことをおぼえています。グラウンドにたまった土砂で運動会も延期になるかもしれないと言われていました。しかし、地域の人々やたくさんのボランティアの方のおかげで9月30日に予定通り運動会ができました。私はこのことを忘れないようにしようと思いました。

これから、またいつあのような災害が起こっても、この時のように地域の人などと協力して活動できるようにしたいです。そして学校では、避難訓練や防災オリエンテーリングを行っています。当たり前のことに感謝して、災害に備えるようにこれからも活動していきたいです。

